

知って安心



あなたのくすりと健康



聞いて安心

第81号

- 高齢者に安全な薬物療法をしていただくために…横浜保土ヶ谷中央病院 薬剤科 榊田 晴美
- 湿布薬について…相模台病院 薬剤部 八城 学
- 薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」…神奈川県病院薬剤師会 賛助会員 久保田 貴子



適切な治療を提供できるよう取り組んでいます



<表紙写真> 東海大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤科

当院は伊勢原市に位置する804床の特定機能病院です。

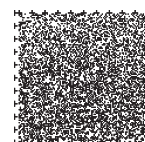
薬剤科の部署は、調剤・注射・外来化学療法・DI・病棟業務・製剤に分かれています。

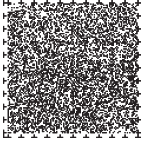
外来化学療法室では、一ヶ月約1000人の化学療法を行う患者に対して、レジメンオーダー・カルテ・検査値等の監査と抗がん薬の混合調製を行っています。また、必要に応じて患者指導も行い、患者さんに適切な治療を提供できるよう他の医療スタッフと協力しながら取り組んでいます。

公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会

2016年6月発行

音声コード





高齢者に安全な薬物療法をしていただくために

高齢者は若年者に比べて、薬の作用が強くなり過ぎることによる副作用や血中濃度の過度な上昇による臓器障害などが発生しやすい傾向にあります。

その主な原因を以下に示します。

- ① 薬物動態*の加齢変化で起こる過量服薬
- ② 複数の疾患を有することによる多剤併用
- ③ 慢性疾患が多いことによる長期服用
- ④ 認知機能、視力、聴力の低下などに起因する誤服用

*薬物動態とは、薬の「吸収」→「分布」組織に広がる→「代謝」分解される→「排泄」の一連の動きと変化をいいます。

特に、①と②が高齢者の副作用増加の二大要因とされています。ここでは、二大要因について説明します。

① 薬物動態の加齢変化で起こる過量投与

加齢により臓器の機能が低下しても薬の吸収に対する影響は少ないのですが、その一方で体の中で薬が偏って存在したり、代謝や排泄の機能が低下したりします。その結果、薬が体の中に蓄積して過量投与となります。

過量投与を防ぐためには、治療に必要な薬の投与量を身長・体重、腎臓の機能などから算出したり、投与間隔を延長したりすることが必要です。さらに、薬によっては血中濃度を測定しながら調節することが重要になります。また体調の変化により、過量投与になる場合もあるので見直しが必要になります。

② 複数の疾患を有することによる多剤併用

高齢者は複数の疾患を有していることが多いので、それらの治療を行うために服用する薬の種類が多くなる傾向にあります。多くの薬を併用することは、薬の相互作用、飲み忘れ・飲み間違いを起こす頻度を高くするほか、6種類以上を服用している患者は5種類以下の患者と比べて、副作用の発生頻度が高いという調査結果も報告されています。

服用中の薬を見直しするには、その薬について使用する根拠があるのか、効果があるのか、薬以外の方法はあるのかなどを検討したうえで、医師が減量・中止・変更を行います。

薬を中止する場合は、突然に何種類も中止すると病状が急激に悪化したり、症状と中止薬剤との関係がわかりにくくなったりするため、少しずつ慎重に行います。

このように加齢に伴い、薬の効き方は変化し、その影響で副作用が起こる場合があるので、処方された薬も永久に万全なものとは言えません。体調の変化が起きた場合や現在服用している薬に心配がある場合には、遠慮せずに医師や薬剤師に相談してください。

参考：高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015

横浜保土ヶ谷中央病院 薬剤科 榊田 晴美

中学生・高校生
対象

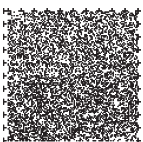
病院薬剤師体験セミナー

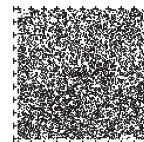
病院薬剤師の仕事に興味がある学生の皆さま、毎年好評いただいている本イベントを今年度も実施します！お申し込みお待ちしております。

〈日時〉平成28年8月17日(水) 13:00～16:30

〈場所〉横浜市立大学附属病院(金沢区福浦3-9)

お問い合わせ：神奈川県病院薬剤師会 045(761)3345
またはホームページをご覧ください





湿布薬について

2016年4月の診療報酬改定で湿布薬に「処方枚数制限」が加わりました。この背景には、湿布薬の大量処方とそれに伴う残薬問題や医療費の問題などがあり、湿布薬の処方の適正化を目的とした内容となっています。

今回は改定の内容を含めて、湿布薬について触れたいと思います。

■ 種類について

湿布薬には様々な種類があり、症状に合わせて正しく使用することが大切です。薬の選択や使用法を誤ると、逆に症状が悪化することがありますので、ご注意ください。

貼付剤の種類	用途
冷湿布 (患部を冷やす)	打ち身、捻挫、打撲、肉離れなど外傷を受けて、熱をもったり、痛みなど患部に急激な炎症が起きている時に使います
温湿布 (患部を温める)	肩こり、腰痛など局所が冷たい時や筋肉のこわばりがあるなどの慢性的な症状に使います
経皮消炎鎮痛テープ剤	急性期・慢性期間問わず使われます。湿布とは異なりはがれにくく、伸びやすいことから、よく動かす関節部分などによく使われます

■ 副作用について

主な副作用は皮膚炎やかゆみなどの皮膚症状ですが、まれに喘息発作や蕁麻疹や呼吸困難などのアレルギー様症状などが起きる場合があります。中でも特に注意したいのが光線過敏症で、ケトプロフェンという成分で多く報告されています。なお、湿布を剥がした後でも薬の成分が一部皮膚の中に残ることが報告されているため、実際に症状が発現した方は使用してから4週間程度、濃い色の服やサポーターなどで貼ったところを日光から遮るようお願いします。

■ 処方枚数制限について

1処方あたりの湿布薬の枚数は「70枚」を限度としています。この70枚は、湿布薬の種類ごとではなく、処方された湿布薬全体の合計枚数を指しています。また適正な処方であることを確認するため、処方箋等に具体的な使用方法を記載することも義務付けられました。

なお今回の改定は、あくまで湿布薬の処方の適正化を目的としているため、「医学的に70枚以上必要である」と判断された場合には、その合理的な理由を付した上で処方されることもあります。

ご不明な点がございましたら医師、薬剤師などにご相談ください。

相模台病院 薬剤部 八城 学

第21回 神奈川県病院薬剤師会主催 市民のためのくすり講座

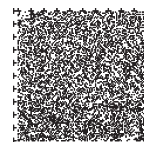
あなたの大切な人ががんと言われたら

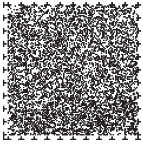
講演①: がん化学療法の実際 北里大学病院薬剤部 菅原充広 先生
講演②: おくすりの治療をどう選ぶか ~抗がん剤から免疫療法まで~
北里大学病院集学的がん診療センター・センター長

〈日時〉平成28年7月24日(日) 14:00~16:00 (13:30開場)

〈場所〉ユニコムプラザ相模原(相模大野駅北口・bono相模大野サウスモール3F)

ご来場の皆さまの「血管年齢測定」も実施いたします。是非ご参加ください。





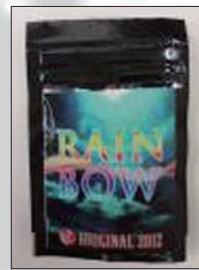
薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」

6月20日から7月19日は、薬物乱用防止の「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の実施期間です。これは、1987年国連「国際麻薬会議」において6月26日を「国際麻薬乱用撲滅デー」とすることが決定されたことにより、これを周知し乱用防止を目的として行われているものです。このほか、不正栽培、自生する大麻・けしを撲滅する目的で、5月1日～6月30日には「不正大麻・けし撲滅運動」が実施されます。

大麻、覚せい剤、危険ドラッグなど、乱用される薬物はいろいろあります。バスソルト、アロマオイル、お香などと称して販売されることもあり、注意が必要です。また、規制の網がかかっていない新たな薬物も次々と合成されるので、これらは更に危険であると思われます。



「バスソルト」の例



「ハーブ」の例

これらの薬物を乱用しても、他人に迷惑はかからないと思うのは大きな誤りです。薬物を乱用することで、脳へ影響し、幻覚、妄想、運動機能の低下、体への影響、耐性、依存などが起こります。これにより交通事故を起こしたり、薬物の購入費用を得るための犯罪につながったりします。また、薬物をやめて10年が過ぎても些細なストレスや飲酒などで、突然、幻覚・妄想といったフラッシュバック（再燃）現象が起こることもあります。

「一度だけなら平気。」「断ったら仲間はずれになるのではないか。」「自分は大丈夫。」などと思っても、ゼッタイに自身の意志ではやめることができません。なぜなら、脳が記憶してしまい逃げられなくなるからです。いまや、薬物事犯は10歳代が検挙されるほどにまで広がっています。薬物の正しい知識を身につけることが大切です。

誘われても、「ハッキリ」「キッパリ」「すぐ逃げる」ようにしましょう。逃げるときは、人通りの多い明るいほうに向かいます。買わない！使わない！かかわらない！薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」

神奈川県病院薬剤師会 賛助会員 久保田 貴子

《編集後記》活躍する薬剤師を紹介しています。今後も様々な事業を企画してまいります。ご要望などございましたら、下記の事務局までご連絡お願いいたします。

《発行》公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会

〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター 4階

TEL：045-761-3345 FAX：045-761-3347

インターネットアドレス <http://www.kshp.jp/>

